

Midori no machi
みどりのまち

みどりのまち「Midori no machi」には、愛「i」がある。



CONTENTS

01 みどりの魅力発信！
（鶴舞公園、徳川園）

05 花壇活動
09 緑のまちづくり活動

11 なごやの森づくり
13 みどりを応援

みどりの
魅力発信！鶴舞公園
TSURUMA PARK鶴舞公園3つのエリアが
大幅リニューアルされました！

歴史と文化、みどりにたたく鶴舞公園の新たな魅力

リニューアル
01

正面南エリア



レストランで食事を楽しむのももちろん、テイクアウトした商品を公園内の芝生やベンチで食べる人も多くいます。図書館へのアクセスもよくなり、利便性も向上しました



カフェでゆったりモーニングを楽しむのもおすすめ。テイクアウトも充実しています



土留めには、かつて名古屋市内を走っていた市電の軌道敷石が再利用されています

案内してくれた人

鶴舞公園緑化センター所長
佐々木辰夫さん

時代と合わせて変化する公園

サクラやバラ、ハナショウブなどたくさんのお花が色づき、季節ごとに景色を変える鶴舞公園。散歩やイベント参加、スポーツ、野鳥の観察などさまざまな方法で市民の皆様が親しまれています。

鶴舞公園は、1909年に名古屋市が設置した最初の公園です。フランス式整形庭園と回遊式日本庭園が融合しているのが特徴で、2009年には公園

のほぼ全域が国の登録記念物に指定されました。

その後も市の中心地的な公園として、時代やニーズに合わせて少しずつ姿を変え、2023年5月には、「正面南」「秋の池」「熊沢山」の3つのエリアを大幅リニューアルしました。

アンケート調査で特に多かった「施設が古い」「バリアフリーじゃない」「もっと魅力的なカフェ、レストランがほしい」といった要望に応えました。

新たな魅力が盛りだくさん！

正面南エリアは、地下鉄・JR鶴舞駅を出てすぐにある、公園の玄関口です。芝生広場を中心にレストランやテイクアウトの店舗がオープンしました。以前からある樹木を活かしているのが特徴で、建物は木々に溶け込むように配置されています。休日には、新店舗を目的に訪れた来園者の行列が見られます。商品購入後は景色のいい場所で食事をを楽しむ人も多く、にぎわいが

増えています。

秋の池エリアでは、テラス席があるカフェや野菜・果物などを買えるグローサリ、ユニバーサルデザインの休憩所、東屋を配置。さまざまな角度から池の景観を楽しめます。東屋は隠れ家のような雰囲気、池の水音が、心を穏やかにしてくれます。駐車場も整備され、車で訪れやすくなりました。お出かけのついでに立ち寄り、一息つくのに最適です。

樹林と小高い地形を生かした

リニューアル
02

秋の池エリア



秋の池には、落ち着いた雰囲気の中で買い物や食事を楽しめるお店ができました



新たにできた東屋からは、日本庭園の景色を見ることができます。壁や柱が額縁のように景色を切り取って、直接眺めるのとは違った雰囲気を感じられます



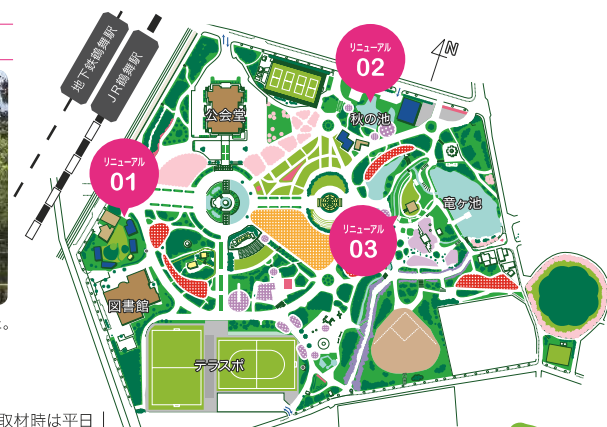
休憩所やトイレもバリアフリーに配慮しており、誰でも気軽に使えます。授乳室もあるので、小さなお子様連れの方にも好評です

リニューアル
03

熊沢山エリア



竜ヶ池など、周囲の眺望を楽しめる小高い丘に再生しました。芝生広場はイベント会場にもなります



のが、熊沢山エリアです。公園の中でも特に静かな場所、野鳥や自然の観察に適しています。SNSでもたくさんさんの写真が投稿されています。10月には海外からの観光客向けに「映えスポットツアー」を実施。名古屋国際中学校・高等学校の生徒たちが、自分たちで考えた鶴舞公園の見どころを英語で紹介しました。ローレルやレモンガラスなどの香りのする植物が特に人気だったそうです。

楽しみ方は多種多様

新たな公園の活用は、すでに

広がっています。取材時は平日にも関わらず、カメラを持って公園を歩く人を多く見かけました。SNSでもたくさんさんの写真が投稿されています。10月には海外からの観光客向けに「映えスポットツアー」を実施。名古屋国際中学校・高等学校の生徒たちが、自分たちで考えた鶴舞公園の見どころを英語で紹介しました。ローレルやレモンガラスなどの香りのする植物が特に人気だったそうです。

ストランなどの施設を目的に来園した人にもどりの魅力を知ってもらえると嬉しい」と話します。

エリアや季節によって異なる顔を見せてくれる鶴舞公園。何度訪れても新たな魅力を見つけられるはず。友人に自慢できるような、自分だけのおすすめスポットを見つけてみてはいかがでしょうか。

インフォメーション

鶴舞公園

営業時間 - 園内自由 -

各店舗の情報はこちら▶
ツルマガーデンアクセス情報など
詳しくはホームページを
ご覧ください▶

https://tsurumapark.info/



みどりの
魅力発信！

徳川園の見どころ再発見！

徳川の時代に思いを馳せる、新しい日本庭園

大名文化の
真髄が体感できるライトアップされた徳川園。
自然豊かで心が落ち着く景色は、
老若男女問わずリピーターに

案内してくれた人

徳川園管理事務所
山中伸男さん(左)
堀田恭史さん(右)

龍門の瀧

流れる水の量が20分に1度増え、飛び石が少し水に沈む仕掛けがあります。戸山荘の遺構から発掘された約250tの岩組を運び、現代に復元しました



ウェディングフォトの撮影などでも利用されるほど美しい景色。池の鯉に専用のエサを与えることもできます

徳川園とは

尾張藩二代藩主徳川光友が1695年に造営した隠居所「大曾根屋敷」の跡地、その一部に現在の徳川園があります。空襲で大部分が焼失した後は現代的な都市公園になっていましたが、2004年11月に日本庭園としてリニューアルされました。

「平成にできた新しい日本庭園ですが、光友の時代の『大名庭園』をイメージしてつくられています。大名庭園は、大名が権威を示すために海外の様式や新しい植物などを取り入れた庭

園で、当時のアミューズメント施設という分かりやすいかもしれません」と、徳川園管理事務所所長の山中伸男さんは話します。徳川園では、中国杭州にある西湖の堤防を縮小した「西湖堤」や、光友の江戸下屋敷 戸山荘（東京都新宿区）の遺構で発見された瀧の岩組を復元した「龍門の瀧」など、こだわりの景色が随所に見られます。

近年は洋式トイレへの改修や可能な限りのバリアフリー化など、より利用しやすいように細かな部分をリニューアルしています。

光の演出にも力を入れており、

水面にモミジが映りこむように細かく調整されています。通常のライトアップは16時から閉園までですが、紅葉やお盆など一部の時期には夜間開園を実施。2023年秋に照明を追加したことにより、さらに魅力的なライトアップになるとともに、夜間は暗かった道も歩きやすくなりました。

ボタンとハナショウブの魅力

徳川園では、ボタンとハナショウブの魅力づくりに力を入れています。

ボタンは花色や花形が異なる

ものなどを集め、現在植えられているのは約100種。管理課長の堀田恭史さんは「4月中旬から下旬まではフジとボタンが共演する見事な光景が見られます」と特におすすめの時期を教えてくださいました。

ハナショウブの見頃は5月下旬から6月上旬。大名庭園では初めて、光友が寛文年間(1661年から1673年)に戸山荘に花菖蒲園を造ったといわれており、徳川園でもハナショウブが大切に育てられています。徳川園の菖蒲田には江戸時代に作られた品種や栽培数が少なく希少な品種があり、

四季の移ろいと、
歴史を感じる！！

堀田さんもイチ押し、牡丹園と菖蒲田。島根県の出雲の産地と技術交流して仕入れた品種やハナショウブの品種改良の始祖とも言われる松平定朝作の群の「菖蒲花」など、一般ではなかなか見られない品種が並びます。

その景色に馴染む岩も、大名の献上品であることを表す刻印が入った刻印石や、尾張徳川家の門外不出であった佐久島石など歴史を感じられるものが点在しているので、ゆっくり探索すると思わぬ発見があるかもしれません。

じっくり
鑑賞する

6月の菖蒲田。アトスホバツとしても大人気



毎年多くの人が心待ちにする、ボタンとフジの共演



牡丹園にある丸印が刻まれた刻印石(左)、園内にある佐久島石(右)



ガーデンレストランと蘇山荘



竹垣も大津垣にリニューアル



ガーデンレストラン店内



ガラス越しに園内を一望できます

ガーデンレストランのB1階は結婚式の披露宴や、企画展示の会場に使われています。ゆったりとした時間を楽しめる、まさに「都会のオアシス」

保存を兼ねて手入れしています。育てにくい品種もあるなか、約6年で50種以上増やし、現在は75種を見ることが出来ます。そのほかの植物も、ウェブサイトで見頃を公開しています。

景色に馴染むカフェ・レストラン

さらに、2022年には徳川園内にあるガーデンレストランとカフェ「蘇山荘」もリニューアル。ガーデンレストランはフランス料理店ですが、店内には和のテイストを取り入れ、徳川園の景色とマッチさせています。「景色

が良いので、窓際の席を希望される方が多いですよ」と、ガーデンレストラン支配人の星野立彦さん。ガラス張りの店内はどこからでも徳川園の豊かな自然が見え、リピーターが多いそう。カフェは店内から見える苔庭がポイント。これだけ広範囲にスギコケが繁るには日当たりなどの条件がそろわないと難しく、実は貴重な光景です。

「常に変化を見て、こまめに手入れをすることで、美しい景色を楽しめるようにしています。100年先を見据えた管理をしているので、計画的に少しずつ変

化させているんですよ」と堀田さん。四季折々に輝く植物が根付いていることはもちろん、コンセプトやイメージをはっきりさせているからこそ、魅力的な庭が作れるのかもしれません。

徳川園に隣接する児童園では現在花壇ボランティアを募集中。徳川園の近くで活動してみたい方は、問い合わせしてみてください。

インフォメーション

徳川園

営業時間
9時30分～17時30分
(入園は17時まで)
(イベントによって変動有)定休日
月曜日 / 年末年始アクセス情報など
詳しくはホームページをご覧ください▶<https://www.tokugawaen.aichi.jp/>



なごや花の環ネット 花の環フレンド募集

あなたも花のまちづくりの仲間になりませんか？



なごや花の環ネットとは

市内には、自宅の庭やベランダ、店舗の入口、公園や街路の植樹帯など、さまざまな場所で花を育てることを楽しんでいる人がいます。名古屋市では、こうした花の活動を通じて人と人をつなぐ「なごや花の環ネット」事業を進めています。

花の活動を「知る」「参加する」「応援する」ことで、活動の環を広げていきましょう！

花の環フレンド募集中！

なごや花の環ネットでは、「花の環フレンド」を募集しています。花の環フレンドとは、なごや花の環ネットの活動に賛同し、ともに花のまちづくりに取り組む仲間のことです。花の環フレンド限定の講座や花のイベントに参加できます。

登録は
こちら

なごや花の環ネット
<https://hananowa.city.nagoya.jp/>



なごや花の環ネット事務局
【問合せ】(公財)名古屋市みどりの協会 みどりの事業課
TEL: 052-731-8590 FAX: 052-731-0201

花の環ネットで、人と人をつなげる

花の環ネット・花の環フレンドを企画した、
名古屋市緑地利活用課より



名古屋市
緑地利活用課
熊澤



Q. なごや花の環ネットができた
きっかけは何ですか？

A. 市内で行われている花壇づくり活動をもっと多くの人に知ってもらい、もっと楽しく参加してもらえるようにと考えたことがきっかけです。実際の活動に参加する人はもちろん、花が好きな人、活動を支える人など、人と人をつなぐことを目指しています。

Q. 反響は？

A. 10月初旬から募集して、12月末までに227人にご登録いただいています。11月に開催した花の環フレンド向けのスキルアップ講習会は、「楽しかった」「また参加したい」と好評でした。今後も、花の環フレンドの皆さんに求められるイベントを企画していきます。

Q. 今後の展開は？

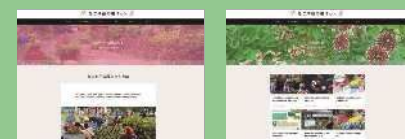
A. 「花壇づくりに興味はあるけれど、知識がなくて不安」「何から始めたらいいかわからない」という方にも楽しんでいただけるように、ポータルサイトの充実やイベントの開催を予定しています。初心者からスキルアップをしたい方など、色々な方に気軽に参加していただきたいです。

身近な花活動を
知る



花壇づくりのポータルサイトOPEN！

花の活動に関する情報が集まるポータルサイトです。花壇づくりのコツや、公園・緑地でのボランティア活動、花と緑に関する講座の参加募集、活動レポートなどが紹介されています。



WEBサイトは
こちらから▼



花活動に
参加する

花の環フレンドに登録して、一緒に花活！

令和5年11月、12月にスキルアップ講習会を行いました。この先も花の手入れを学べる講習会やガーデニングツアーなど、楽しく参加できるイベントを予定しています。



参加した皆さん

名古屋駅前の花壇ではパンジーやストック、エリカなどを植えました。冬から春にかけて街を美しく彩ります

花の環フレンド対象のスキルアップ講習会が、11月から市内2か所の花壇で始まりました。市役所前では、参加者同士で花の配置を話し合う場面も。名古屋駅前では、講師の説明を受けて宿根草の切り戻しや花植えを行い、初心者も積極的に挑戦しました。「よく来る場所だけれど、自分が携わった花壇があるから、来るのが楽しみになりそう」「もっと花植えがしたい！」など、活動を楽しみ声が聞こえました。

花を育てている人を
応援する



寄附やCSR活動で花壇づくりを応援！



「自分で花壇づくりをするのは時間的・体力的に難しいけれど、力になりたい！」という方や企業の皆様から、温かい応援をいただいています。

寄附の仕組みについては、13ページをご覧ください。

花壇活動

まちを花いっぱいにする活動

花と緑のまちづくりを支える活動団体の皆さんをご紹介します。

それぞれの場所で、自分たちに合う方法で、まちを彩る花壇づくりをしています。



ゆめ緑道ごきそ



自分たちで育てた苗を植えていく、楽しいひと時



秋の苗場。ここから一つひとつの花壇まで運んで、会員が植えています



御器所通交差点花壇も、ゆめ緑道ごきそで苗場で作られた花を植栽しています

手入れをしているときに声をかけてもらおうと、励みになります(岩田さん)



代表 岩田秀明さん(左)
事務局長 蟹江治恵さん(右)

会の交流会で植物園などに行き知見を広げるのも楽しみです(蟹江さん)

「きれいな花と緑があふれる歩道をつくることで、住みたくなるまちにしたい」と有志によって始まった「ゆめ緑道ごきそ」。現在は約70人の会員がリレーするように、昭和区内の山王線にある花壇やフアラポートの手入れをしています。ここで使われている花苗は、川名公園にある苗場でタネから育てられています。「タネから育てた方が楽しい」と話す植物好きが多いのが、ゆめ緑道ごきそ。私たちと一緒に活動して下さる仲間を募集しています。お気軽にご参加ください。

ゆめ緑道ごきそ

【問い合わせ】昭和区役所 区政部地域力推進室

TEL : 052-735-3822
FAX : 052-735-3829

お問い合わせはこちら
Mail : a7353823@showa.city.nagoya.lg.jp

若宮大通公園花飾りボランティア「花ともだち」



ハンギングバスケット制作に集まった皆さん。仲が良く明るい雰囲気の魅力です



難しいハンギングバスケットに、てきぱちと植えていきます



手際よく花期が終わった株の撤去作業もしています

園芸初心者で参加して、ずっと続けています。植え付けてから生長してきれいになった花を見るのが好きです(轟下さん)



植え付け直後のハンギングバスケット。パンジーとスイートアリッサムが計11株植えられました

気軽に休日もできて続けやすいのもあり、南区から通い続けています。自分の家でもガーデニングはしていますが、みんなで作業するのは格別ですね(奥山さん)

市の呼びかけで始まった花ともだちは、18人全員が女性の団体。中土木事務所と、名古屋市みどりの協会などの企画のもと、若宮大通沿いを花で飾っています。普段の活動は、月に2回の水やりやメンテナンスですが、この日はハンギングバスケットを制作。集まった12人で48基を作り上げました。皆さん口をそろえて言うのは「お花が好き」ということ。活動のあとは花好きのお友達として、一緒にランチに行くのが楽しみだそうです。「花のイベントや活動の情報も共有して、会員と一緒に参加しています」と話す人も。まさに「花ともだち」という和やかな雰囲気です。

若宮大通公園花飾りボランティア「花ともだち」

【問い合わせ】(公財)名古屋市みどりの協会みどりの事業課

TEL : 052-731-8590
FAX : 052-731-0201

お問い合わせはこちら
Mail : midorinokuyoudou@nga.or.jp

名古屋駅地区街づくり協議会 おもてなし花壇



年に2回、協力企業の皆様と楽しく花植えを実施



Before

After

現在は華やかな花壇で彩られ、訪れた人の目を惹きつけています

名古屋駅地区街づくり協議会が手を加える前は一面のベランダ。ゴミも捨てられていました

協力してくれる企業さんや、植栽のアドバイスをくださる団体さんのおかげで、12年間無理なく続けてこられました(佐伯さん)



事務局の佐伯恵さん(左)
下川知恵さん(右)

名駅のリニューアルに伴って、今後も名古屋の玄関口を華やかに飾っていきます(下川さん)

名古屋駅地区の魅力向上のため、周辺の企業が協力して街づくりをする、名古屋駅地区街づくり協議会。名駅地区を花で飾るのも、活動の一つです。名駅地区に設置される「おもてなし花壇」に協力しているのは、現在23社。例えば、タワース前から世島交差点方面に抜ける歩道の花壇も同協議会が管理しています。以前は一面緑でしたが、現在は花の咲く宿根草や一年草を植え、道が明るい雰囲気になりました。名古屋駅地区街づくり協議会は、令和元年に環境省主催の「みどり香るまちづくり」コンテストで特別賞を受賞するなど、花壇づくり活動でも大きく評価されています。おもてなし花壇は協力企業のロゴ入りのプレートが目印。名駅に来たときに、探してみたいかがでしょうか。

名古屋駅地区街づくり協議会

Instagram
@welcomeieki

活動の詳細はウェブサイトやSNSから
<http://www.nagoyaeki.org/>



花壇づくり講習会を市内3か所で開催！

花壇づくりの知識と実技を学べると好評！

名古屋主催の花壇づくり講習会が、鶴舞公園、庄内緑地、荒子川公園の3か所で開催されました。令和5年度は、普段から愛護会や活動承認団体、緑のパートナーとして活躍されている85名の方が参加されました。

1回目は土づくりから学べる花壇づくり、2回目は花の手入れの仕方と、タネだんごを制作。3回目は球根の植え方を学び、それぞれの活動に活かしてもらうことを目的としています。

3回目になる頃には、皆さん顔なじみに。前回の講習会で作ったタネだんごがどのように育ったか写真で見せ合って、良かったことや改善点など意見交換をする場面もありました。



球根を植えるコツや季節ごとのおすすめ植物など、講師の説明に耳を傾け、熱心に質問されていました



実習では球根の向きや深さに気を付けて、真剣に植えています

参加者の声

説明が丁寧で
分かりやすかった

他の愛護会の活動を知る
ことができて参考になった



緑のまちづくり活動

身近なみどりをみんなでキレイに

長年にわたり緑のまちづくり活動をしている団体に感謝状を贈呈しました。
また、交流会を通して団体の皆様が集まる場を提供しています。

第34回「みどりの愛護」 国土交通大臣表彰

2023年6月3日、北九州ソレイユホール(北九州市小倉北区)で、第34回全国「みどりの愛護」のつどいが開催されました。国土交通大臣表彰は花と緑の愛護で特に顕著な功績のあった団体をたたえるものです。全国から88団体が表彰され、名古屋市からは2団体が表彰を受けました。



高年大学園芸緑友会

2001年5月に名古屋市高年大学城学園園芸専攻のOBが設立した団体です。2011年3月に活動承認団体に認定されました。会員数は237人。戸田川緑地や名城公園、鶴舞公園など市内複数の公園で、花壇づくりや除草・清掃、緑地の育成活動をしています。これまで増った各種園芸の知識や技術、経験を活かした公園づくりが評価されました。



戸田川みどりの夢くらぶ

名古屋市が主催し、市民や企業が主体となって次世代に伝える豊かな森を育てようとする、「なごや西の森づくり」。その活動に賛同する市民により、2003年3月に設立されました。2009年に活動承認団体に、2010年には緑のパートナーに認定されました。28人の会員で週1回、植樹や間伐、枝打ちなどの育樹活動や、動植物の生育・生態調査、水辺環境保全を行っています。

令和5年度 都市緑化功労者表彰



都市緑化功労者表彰式

2023年10月24日に、名古屋市公館(名古屋市中区)で、公園および街路樹の保全・愛護に尽力した18団体の皆様に、感謝状と記念品を贈呈しました。おごそかな雰囲気の中、表彰式では皆様の熱心な活動を紹介しました。

表彰された皆様

千種区・仲田本通第2街路樹特定愛護会
東区・平田公園愛護会
北区・東志賀町線第2号街路樹愛護会
西区・白菊公園特定愛護会
中村区・京田公園特定愛護会
中区・御園通(上園町)街路樹愛護会

昭和区・折戸公園特定愛護会
瑞穂区・瑞穂通第四街路樹特定愛護会
熱田区・花表東公園特定愛護会
中川区・東前田第三公園特定愛護会
港区・稲荷公園特定愛護会
南区・杓子田公園特定愛護会

守山区・大永公園愛護会
緑区・桶狭間古戦場公園特定愛護会
緑区・込高公園特定愛護会
名東区・西一社第一公園愛護会
天白区・下原公園愛護会
東山・東山花バスケット公園特定愛護会

愛護会交流会を開催

令和5年度 愛護会交流会 10月31日

愛護会同士、そして愛護会と名古屋がつながりを持って活動できるように、毎年交流会を開催しています。令和5年度は設立から6年目までの街路樹愛護会の皆さんが名城公園に集まり、花壇の手入れをしたり、樹木医と一緒に名城公園の植栽を観察したりしました。



愛護会制度説明



愛護会の概要や市からの支援内容、手続きなどを説明しました。愛護会活動における「やりがいや楽しさ」「大変なこと、困っていること」なども共有されました。

手入れのコツ講座



名城公園のモデルガーデンで花壇の切り戻しのワークショップ。日々の花壇の手入れの疑問などを熱心に質問する人も多く、貴重な学びの時間になりました。

樹木医さんと歩く名城公園ツアー



樹木だけでなく、下草にも目を付けて解説してもらいました

樹木医の寺本さんを講師に招き、樹木の基礎知識と剪定方法などについての座学と、名城公園を歩くツアーをしました。ツアーでは、名城公園を彩る植物や、樹木の説明をしてまわり、参加者の皆さんはあれこれと植物の特性について質問。愛護会活動でどんな種類の草花を植えたらいいか、手入れするときのポイントは何かを質問しながら、秋のガーデンも楽しみました。

案内してくれた人

岩間造園(株)
樹木医：寺本正保さん





都市の貴重な生きものの生育・生息場所を守る

森を次世代に伝える活動をしています。一緒に参加してみませんか。

水源の森と八竜湿地を守る会

守山区 八竜湿地とは

金城学院大学の奥にあり、小幡緑地に隣接する八竜緑地。約6.4haの広さの中に、約0.5haの八竜湿地を有します。東海地方固有の植物であるシラタマホシクサやマメナシ、市内では絶滅の恐れがあるミミカキグサやヒメタイコウチが生育・生息しています。月次定例観察会および春と秋の観察会では、普段は非公開の湿地を市民に開放しています。



草刈り作業中の皆さん



会員以外の人も、自然観察会で湿地の植物を楽しめます



シラタマホシクサやミミカキグサが生育する湿地。タヌキを見ることがも



ミミカキグサ



ヒメタイコウチ

水源の森と八竜湿地を守る会

会長 田京弘一さん(左)
飯野道彦さん(右)

お二人は「八竜湿地を見学した小学生からの感想をもらうのも楽しみの一つ」と笑顔



インタビュー

愛護会による八竜湿地の保全活動が始まったのは、1999年。湿地を守りたいと考える市民が集まって「水源の森と八竜湿地を守る会」ができました。現会長の田京弘一さんは15年ほど前に植物について学びたいと入会。「湿地の植物は繊細なので、踏んではいけません。会の先輩には、足の置き方から厳しく指導していただきました」と当時を振り返ります。愛護会は湿地の所有者である金城学院大学と行政と連携し、5、6年

に1度植生調査をしており、1970年代から80年代の湿地の状態に戻すためにどこをどう手入れするか方針を立てて、作業をしています。モットーは「少しでもいいから、丁寧に」。よく目を凝らさないと見えない植物を踏み荒らさないために、草刈りも全て手作業。月に6回の活動で少しずつ環境を整えています。「木を切ることで水の流れを調整すると、水が流れたところからシラタマホシクサが群生する、といった具合で成果が見えたときにやりがいを感じます」

と田京さん。

田京さんと同じ頃に入会した飯野さんは「八竜緑地の自生植物を大切にしており、新池に投げ込まれた外来のスイレンを苦労して除去しました」と話します。作業の休憩時間にお茶菓子を持ち寄り、談笑するのを楽しみにしている人も多そう。楽しみながら、学びながら、自然を守っています。

お問い合わせと活動概要

水源の森と八竜湿地を守る会

お問い合わせ

TEL：080-6901-1882(田京さん)

活動場所：八竜緑地(守山区大森八龍1)

活動日：毎週木曜、第3月曜、最終土曜

活動時間：9時半～12時

詳しくはこちら▶



白玉星草と八丁トンボを守る 島田湿地の会

天白区 島田湿地とは

島田湿地には、名古屋市内では稀少で貴重な動植物が生息しています。1980年頃、名古屋市が開発から保護する目的のために緑地として残しました。1988年に地元有志で「白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会」を結成し、名古屋市と協働して湿地の保全活動に取り組んでいます。1996年に名古屋市によって「島田湿地自然生態園」として整備されて以降、毎年4月から10月までの土日祝日に一部の区域を一般に公開しています。



観察会には親子連れの方が多く参加しています



島田湿地の会の皆さん



池の清掃は、保全活動のなかでも特に重要な作業です



ハッチョウトンボ



シラタマホシクサ

白玉星草と八丁トンボを守る
島田湿地の会

代表 浅井聡司さん

40年近く島田湿地で活動。観察会に参加する子どもたちには「トンボ先生」の名で親しまれています



インタビュー

「この会は自然が大好きの人なら大歓迎。ただし、入会は1年間、共に活動していただいてからです」と話すのは、代表の浅井聡司さん。島田湿地に思いつく、東海地方の固有種であるシラタマホシクサと、世界最小のハッチョウトンボを保護するために、湿地の環境を保全しています。例えば、湿地に生えるヨシなどを放置しておく、貴重なシラタマホシクサやミズゴケなどが失われてしまうため、活動は、湿地の除草や雑

木林の伐採、池の清掃、外来種の駆除など多岐にわたります。自然生態園に足を踏み込めば、春はトンボの飛翔、秋は色とりどりの湿地植物が咲き誇ります。そして、年に6回開催される「自然観察会」では、一般の方でも通常は閉鎖されている区域に入り、会員から、稀少で貴重な植物や昆虫の生態の説明などのガイダンスが受けられます。「人は自然の一部。自然の命と人の命はつながっているから、自然を守ることは人の命を守るのと同じ

こと」と考え、使命感を持って活動しています。だからこそ、1年間の活動の中で、湿地の移り変わりや湿地に暮らす生き物の営みを知ってから、正会員になっていただいているんです」と話す浅井さん。都会の片隅で、ひっそりと、自然と人との関わりを伝え続けています。

お問い合わせと活動概要

白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会

お問い合わせメール
sky-asai@earth.ocn.ne.jp(浅井聡司)

活動場所：島田緑地(天白区高島2)

活動日：4月から10月の第3日曜

活動時間：9時～12時

詳しくはこちら▶





あなたの応援で 魅力あるみどりのまちに！

市内の公園・街路樹をより魅力的にするため、個人・企業・団体の皆様からの3つの形で寄附を募っています。いただいた寄附金は、花壇づくりをはじめ、さまざまな場面でまちづくりに活用されています。

3種類の
応援タイプから
選択できます

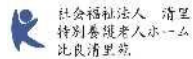
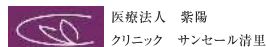
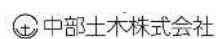
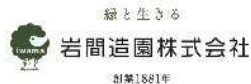
スポンサー花だん

企業や市民の皆様からいただいた協賛金を、花苗や肥料などに活用し、地域の花壇づくり活動をサポートします。現在は市内18か所の花壇で協賛をいただいています。



令和5年度 協賛いただいた皆様

2R推進実行委員会



株式会社エンゼルパーク
名古屋みなとライオンズクラブ
六反学区区政協力委員会
有限会社尾関電気
株式会社スタイルズ
LAZOR GARDEN NAGOYA

中日美容専門学校
名駅南地区まちづくり協議会
星槎名古屋中学校 保護者の会 和や会
笹島小・中学校PTA
株式会社東横イン名古屋駅南
明社緑友会

株式会社出雲殿互助会
東海医療科学専門学校
社会福祉法人白帆会 名駅南保育園
社会福祉法人紫水会 比良すみれこども園
株式会社Free Foods
株式会社AOKI 御器所総本店

愛護会×企業でつくる 下園公園スポンサー花だん

名古屋観光ホテルがスポンサーとなって下園公園愛護会の皆さんが手入れをしているのは、下園公園のスポンサー花だん。公園にきれいな花壇ができあがることで、周辺の景観に彩りを添えています。



下園公園をきれいに保つ活動をしているのは、愛護会の皆さん。現在の会員は約25人で、月に2～3回集まり、1～2時間ほど公園の清掃や花壇の手入れなどを行っています。「掃除や水やりは無理なく体を動かすから、健康づくりにちょうどいいんですよ」と笑うのは、会長の澤井茂利さん。愛護会の活動で初めて園芸に触れ、今では手際よく作業をされています。

一面に花が植えられた花壇を見て「花壇はこまめに手入れしています。公園に立ち寄った人に花を楽しんでもらえればうれしいですね」と話す澤井さん。地域みんなの力で、名古屋のまちの魅力をアップさせています。

下園公園愛護会

会長 澤井茂利さん

「やるからには真剣に」と、花とみどりの景観づくりに前向きに取り組んでいます



お手伝いしています！ 中土木事務所

愛護会の皆さんに作業手順を説明したり、一緒に花植えをして活動をサポートしているのは、名古屋市中土木事務所。「皆さんが頻りに手入れしてくださるおかげで、花壇が維持できています」と話してくれました。



名古屋に訪れた方へのおもてなしに！ 寄附者の声



名古屋観光ホテル
阪口隆治さん



「ホテルのロビーからは必ず公園の緑が見えます。公園はホテルの風景の一部で、お客さまにとっては癒やしの景色になっていると思います。花植えや清掃など、公園で作業していただいている皆さんにはいつも感謝しています」と、名古屋観光ホテルの阪口さん。
名古屋に訪れた方をもてなすパートナーとして、花壇づくりに協力されています。



寄附に関する
お問い合わせ▶

名古屋市緑政土木局緑地利活用課

TEL : 052-972-2489

FAX : 052-972-4143



ふるさと寄附金

なごやを応援したいと思っていただけるみなさまに、寄附(納税)を通じて市のまちづくりにご協力いただくものです。

緑のまちづくり寄附金

緑を活かした住みやすい生活空間づくりのため、街路樹の植替えや名木の治療などに活用します。



さくらの名所応援寄附金

「さくらの名所」を守り伝えていくため、弱った木の治療や植替えなどに活用します。



公園事業寄附金

すべての人にとってより魅力的な公園となるよう、遊具の充実やボランティア活動への支援に活用します。



里山保全寄附金

混みあった樹木の間引きや枯れ木の撤去などを行い、里山を健全にしていく取り組みに活用します。



メッセージ付き寄附

ベンチ等をご寄附いただくとともに、あたたかいメッセージを公園に残していただくものです。

なごやかベンチ

公園に新しいベンチを設置し、オリジナルのメッセージプレートを取り付けます。思いを形として残してみませんか？

遊具や健康器具をご寄附いただくこともできます。

